



# 社会教育だより



photo 城北公民館と城北小学校による地域学校協働活動「じゃがいも大作戦」

## 特集

### これからの結集! しまねの子育て協働プロジェクト

— 学校・家庭・地域の連携・協働のキーパーソンとなるコーディネーターの取組から —

2018.  
2月号

#### contents

- 地域づくりを担う人づくりにつながる「学び」のために
- 学びをカタチに!! 〔飯南町・集落支援員(頓原地区) 服部恵子〕
- わがまちの社会教育の実践紹介 〔出雲市・吉賀町〕
- 親学プログラム活用紹介 〔吉賀町・江津市〕

# これからの結集!しまねの子育て協働

—学校・家庭・地域の連携・協働のキーパーソンとなるコーディネーターの取組から—

## これまでの結集!しまねの子育て協働プロジェクト事業の成果

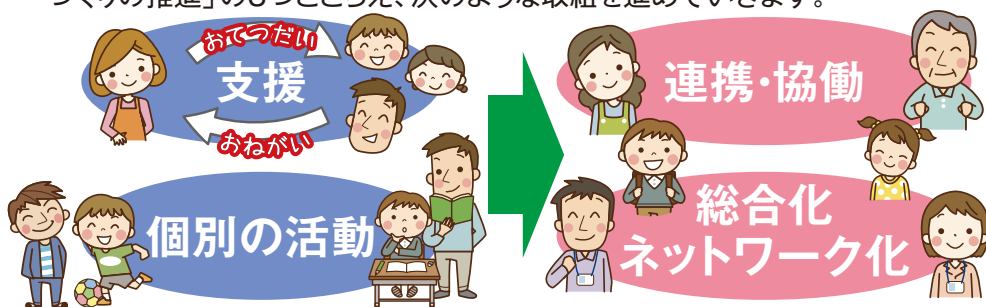
島根県では、平成24年度から地域全体で教育に取り組む体制づくりを進めてきました。

### 【これまでの成果】

- ◇子どもの健やかな成長や地域の活性化
  - ・地域のたくさんの人々による子どもの教育への参画
  - ・子どもの学びや体験活動の充実
  - ・活動に参加する人々にとっての生きがいやつながりの場の広がり
- ◇地域の実態に応じたしくみづくりや取組
  - ・学校区ごとの協議会における、子どもの教育にかかわる様々な活動についての話し合いの機会
  - ・複数事業(学校支援・放課後支援・家庭教育支援・土曜日の教育支援・地域未来塾等)の合同研修会、合同会議の実施

## これからの結集!しまねの子育て協働プロジェクト事業にむけて

地域住民が積極的に子どもの教育に関わる環境づくりを進める中で、顕著になってきた課題を「学校・家庭・地域の連携・協働による人づくり、地域づくりの意識の醸成」「より多くの、幅広い層の地域住民の参画」「持続可能なしくみや体制づくりの推進」の3つととらえ、次のような取組を進めていきます。



島根県教育委員会発行「結集!しまねの子育て協働プロジェクトリーフレット」より

### ①結集!協働本部の設置

小学校区、中学校区ごとなどに「協働本部」を設置し、結集!しまねの子育て協働プロジェクトを推進する体制を整える。

### ②目標やビジョンの共有

複数の会議をまとめ、様々な活動が、めざす子ども像や地域像の共有のもと展開されるようにする。

### ③コーディネート機能の充実

地域コーディネーターや統括コーディネーターのコーディネート機能の充実を図る。

## 連携・協働のポイントとは —第1回、第2回コーディネーター研修の講師より—



第1回  
コーディネーター研修

大分大学  
高等教育開発センター  
教授 岡田正彦氏

- 公民館職員、学校教職員、教育委員会職員、地域組織メンバー等関わる当事者の思いを明確にし、共有する。そして、時折、振り返り、確認することが大事。
- 計画・実践・振り返りを一体のセットにする。
- 連携・協働を有効に進めるために…
  - ①「無い」もの探しではなく、「有る」もの探しをする。ネガティブなところだけ見ていると元気もなくなる。意外に「有る」ものの

- 連携・協働は目的ではなく手段である。
- 連携・協働により費やされる労力が減少する見込みはあまりないが、単独では実現できない効果が生み出されることはある。

価値に気づいていなかったりすることもある。

- ②無理を強制せず、しかし「少し負担だけどそれ以上に楽しい(充実している)」という感触をもってもらうことが重要。
- ③いい連携をしていたら、周りから声がかかるようになる。連携、協働の相手先を開拓することも有効だが、むしろ連携、協働の質を高めていくことの方がより重要。



第2回  
コーディネーター研修

岡山大学 大学院  
教授 熊谷慎之輔氏

- ピンチはチャンスに変える機会。そこに大人の学びがある。大人にとって学びは「変わる」こと。研修の場、先輩の姿、自分の経験を振り返る等…
- 「変わる」ためには自分の取組を見直す。否定からは入らないこと。



# プロジェクト

島根県では、これまで進めてきた「地域住民が積極的に子どもの教育にかかわる環境づくり」をさらに進め、各事業が連携できるしくみづくりや、学校・家庭・地域がめざす子ども像や地域像（目標やビジョン）を共有できる体制づくりを強化し、地域全体の教育力の向上をめざしています。

## 連携・協働のキーパーソンとなるコーディネーター

学校・家庭・地域の連携・協働をすすめ、ともに子どもを育て、ともに地域をつくっていくためには、活動をコーディネートする体制と、その中で核となって動くコーディネーターの力が欠かせません。現在、県内では学校支援、放課後支援、土曜日の教育支援等でおよそ370名（H29結集！事業計画書より）の地域コーディネーターが活動しておられます。ここでは、本年度の県立東部・西部社会教育研修センター主催の「コーディネーター研修」で実践発表された皆さんのコーディネート工夫等を紹介しします。

### コーディネーターとしてのこの10年

松江市学校支援地域コーディネーター 千鳥の杜学園 渡邊 圭子 氏

- 失敗や苦労をエネルギーに変える。“ピンチ”を“チャンス”に！
- 公民館職員や学校教職員と話すこと。時には愚痴を聞いてもらうことも必要。
- 学校事務職員がキーパーソン。コーディネーターにはできないことは専門家に！
- 支援のねらいをボランティアの方と共有する。主体的に活動できるボランティアに！
- ボランティアの募集は、意中の人がいなくても、公平に声をかけるようにしている。



### ジャンプ教室の取組

出雲市立さくら小学校ジャンプ教室コーディネーター 多久和 真奈 氏

- 日頃から学校やコミュニティセンターに出かけている。地域に根付くことを意識している。
- 児童クラブのスタッフとの日常的な情報共有・交換を大事にしている。
- 機能する運営委員会となるようにする。活動に理解ある人、関心のある人を巻き込む。
- みんな（学校・先生・地域・保護者）を巻き込む。完璧を求めない！多少の“ゆるさ”、人に“頼る”ことも必要。そのおかげかスタッフが自主的に動いてくれている。



### 畑迫公民館の取組

津和野町畑迫公民館 館長 青木 由充 氏 主事 中村 浩美 氏

- 閉校というピンチはチャンスかも！発想の転換で“校区が広がる→かかわる児童が増える”
- 今できることを切り口に学校とかかわり、信頼関係を構築していく。「わきまえた出しゃばり」がポイント！
- 地域の団体・人とも積極的にかかわるため、自分からどんどん飛び込んでいく。
- 事業に少しずつ変化を加えて、住民と一緒に進んでいく。



### 子どもたちにたくさんの出会いを

川本町教育魅力化コーディネーター（地域おこし協力隊） 梅原 梨 氏

- 子どもたちの学びを支えるという共通の思いを大切にしている。
- 協力者の気づきを、地域の人づくりにつなげていこうとする長期的な展望をもっていること。
- 思いや願いを実現するためのひと工夫。最後まで主導権をもつのではなく、ねらいを共有した後は思い切って任せることが大切。
- つながりの中で、「大人の『〇〇したい！』」を引き出していくこと。



- 何のために連携しているのかを確認する。学校と地域・保護者が“めざす子ども像”を共有する。中学校区なら、“15歳の子ども像”を皆で共有できることが大事。市町村教委のビジョンが必要。
- “学校を核にした地域づくり”と“地域とともにある学校”は両輪。学校をよくすることによって地域をよくするという視点を持つといい。
- コーディネーターの横のつながり、ボランティア同士のつながりをつくって、組織化していく。

- コーディネーターは、自分がいなくてもできる組織づくりをしているといい。現実にはプレイングマネージャー的な存在へ。
- 地域との情報共有というが、地域住民全員と共有しないといけないわけではない。熱心な人と共有できることが大事。
- 楽しみながらできるコーディネーターとしてのポイント
- ①重複を避けるようなコーディネート  
1+1=2でなくてもいい。1+1=1でもいい。その“1”を質の高いも

のにしていけばいい。数ではなく、内容を深めていくことが大切。

- ②オシャレな見せ方しんどいこともあるけれど、楽しいコーディネートができるように！“ごころうさま”“あなただからできる”といわれるコーディネーターではなく、ざらっとおしゃれにニコニコできるコーディネーターになれるといい。
- ③知りたいことはどこにあるのかを知っているコーディネーターなんでも知っているコーディネーターである必要はない。だれに、どこに聞けばいいのかが知っていること、そして、そこが居心地の良い場所であることが大事。



### 第2回 コーディネーター研修

国立教育政策研究所  
生涯学習政策研究部  
統括研究官  
志々田まなみ 氏

# 地域づくりを担う人づくりに

「話し合いがうまく進まず、何も決まらない」「発言力のある人が議論を独占している」「協議の場というよりは報告の場にしかっていない」等、地域で行われる会議や話し合いの中でこういった場面に出会ったことはありませんか？  
地域づくりに主体的に参画する人づくりを進めていくうえで

1. 地域課題を自分ごととしてとらえる
2. 多様な思いや考えにふれる
3. 新たな気づきを得たり、自分の思いを確かにしたりする

ことが大切です。住民が活発に意見を出し合い、よりよい地域づくりを主体的に進めていくために、東部・西部社会教育研修センターでは、「参加型学習」の活用を提案しています。

## 一人一人が主体的に学ぶ「参加型学習」とは？

参加型学習について、本センターでは

参加者が受け手や聞き手として参加するのではなく、参加者同士が積極的に交流しながら、共に活動することで、自らの気づきや行動変容を促すことをねらいとした学習方法

ととらえています。

参加者の満足が高まると…  
一人一人が主体的に学ぼうとする意欲を高めたり、  
集団としての創造的な活動へと発展したりすることが期待できます



### 参加型学習の特徴

特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験を通して、参加者同士で学び合う</li> <li>・「学び方を学ぶ」学習</li> </ul>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が能動的になり、当事者意識が高まる</li> <li>・参加者同士のつながりが生まれる</li> <li>・多くの人の意見や価値にふれることができる</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに得る情報や知識は「講義型」より少ない</li> <li>・準備に時間がかかり、進行の負担も大きい</li> </ul>



### 参加型学習で用いられる代表的な手法

- カードワーク
- ラベルワーク
- ランキング
- ワールド・カフェ
- ピクチャーワーク
- エピソード
- フリップ・ディスカッション
- ⋮

### 特性

- ◇自分が大切にしたい考えを整理することができる。
- ◇個人作業が多いので、グループワークに慣れていない人も参加しやすい。
- ◇トランプと似た手法で進めるため、ゲーム感覚でできる。

### 進め方

- 1 4～5人のグループをつくって、グループごとに座る。
- 2 一人ひとりが、テーマに沿って、思い浮かんだことをカードに記入する。
- 3 全員のカードを裏返してまとめ、きって中央に置く。
- 4 順番を決めて、1人ずつカードをひく。
- 5 2順目になったら、もう一度ひき、最初にひいたカードと比べる。
- 6 自分がテーマに沿っていると思う方のカードを手元に残し、選ばなかったカードは裏返して、自分の前に置く。
- 7 この作業を中央のカードがなくなるまで続ける。
- 8 グループのメンバーで、最後に残したカードを見せ合い、その理由や想いを発表し合う。

このような参加型学習を効果的に進めるのが**ファシリテーター**です。



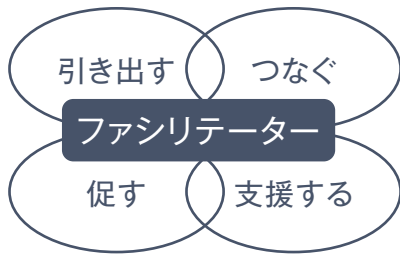
# つながる「学び」のために

## 参加型学習を進める「ファシリテーター」

「ファシリテーター」について、当センターでは次のようにとらえています。

目的に応じて、参加型学習を効果的に組み合わせて学習プログラムを設計し、円滑に推進・進行する人

ファシリテーターの特性として…



ファシリテートのポイント

- ◇参加者の主体性を尊重する
- ◇開放的な雰囲気をつくる
- ◇学習のプロセスを把握、理解する
- ◇指示は“短く”“簡潔に”そして“自分の言葉で”伝える
- ◇ふり返り、分かち合いを大切にする
- ◇グループでの対話、交流による相互作用を大切にする
- ◇時間の管理をする
- ◇事前の打ち合わせと準備を大切にする

## 地域づくりを担う人づくりにつながるファシリテーター養成講座

今年度からスタートした3回シリーズのファシリテーター養成講座では、地域づくりに主体的に参画する人づくりにつながる「参加型学習」の企画・立案、進行ができるファシリテーターを養成しています。



第1回

参加型学習を体験し  
ファシリテートについて  
考えてみよう

- ・参加型学習の特徴や効果について
- ・理想のファシリテーター像について考えてみよう
- ・代表的な手法を体験してみよう

第2回

ねらいをもった  
企画・設定について  
考えてみよう

- ・「学習プログラム」のねらいや込められた思いについて考えよう(ペア活動)
- ・ファシリテート実施に向けての準備をしよう(ペア活動)

第3回

ファシリテートを  
体験しよう

- ・作成したプログラムを使ってファシリテートしよう
- ・たがいに見合ってポイントを見つけよう

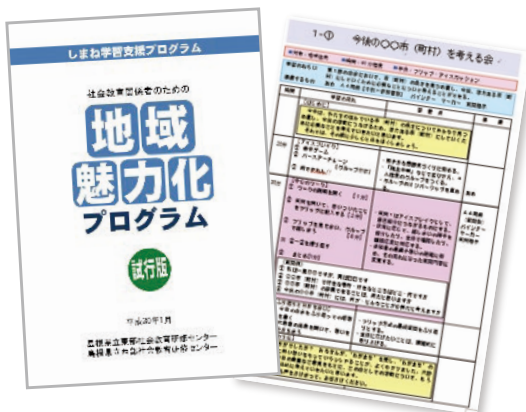
受講者の感想

- プログラムを企画する難しさがあった。ねらいに向けて何を選択するのが、こんなに大変なことだとは思わなかった。事前準備の甘さで失敗したので、準備の大切さを痛感した。
- ここで初めて出会った方と組み、プログラムを一緒に考えるうえで、違った視点で意見をいただき、より深く考えることができた。



現在、地域づくりに主体的に参画する人づくりを支援、推進するために社会教育関係者のみなさんが活用できる、新たなしまね学習支援プログラム「地域魅力化プログラム」の開発に取り組んでいます。このプログラムは、地域で起こり得る課題等の話し合いに対応しやすいように「参加型学習」の手法を用いて作成しています。

平成30年度には、本年度作成した試行版に改良を加えた実施版の完成をめざしています。各地域の状況等に応じて試行版を実際にご活用いただき、改善すべき点やお気づきになられた点等ご意見をお寄せください。



# 学びをカタチに!!

社会教育研修センターの研修で学んだことを活かし、地域や現場で“地域力の醸成”につながる実践に取り組んでいる方を紹介します。

## ファシリテートすることと地域に向き合うことは似ている気がします

飯南町頓原地区集落支援員 服部 恵子 さん

社会教育研修センターの研修に参加するきっかけとなった講座は、四年前、飯南町の派遣社会教育主事に勧められて参加した「親学ファシリテーター養成講座」でした。その頃、地域おこし協力隊だった服部さんは「親学ファシリテーターになりたい」というより、「人の意見を聞いたり引き出したりしながら会を進行できるファシリテーターになりたい」と思って参加されました。

それまでの“参加者”という立場からファシリテーターへと変わっていき、今ではいろいろな会のファシリテーターを頼まれることが多くなり、今年度からは集落支援員として地域で行われる会へ参加することも増えているそうです。



地域の答えは地域の人の中にしかなくて、1ターンの私がいろいろとアイデアを言ってもダメなんです。

地域の地元の人にしか答えはなくて、地域の“答え”は地域がもっているんです。私ができることとはその“答え”を引き出せるように自分たちで導き出せるように、いろんな方向からかかわって働きかけをすることなのかもしれないと気づきました。

今は集落支援員という立場なので何かやるのが支援だと思われがちです。もちろん、地域の要望に応えることもするのですが、「全部やってあげる」「つくってあげる」では、どんどん自分ひとりでやらなくてはならなくなって苦しくなってしまいます。でも、地域の人とかかわって一緒に試行錯誤しながらやるほうが私も楽しく地域に向かい合えます。

## ■先回りしすぎたらだめ！人の心に灯をつける工夫をしていきたい



今年度、当センターの「公民館等職員研修」を受講された服部さんは、地域の人と関わっていくなかで、自分自身の集落支援員としての在り方がはっきりと分かったそうです。地域や団体と向き合うときには距離感が大切だと話してくださいました。飯南町頓原の佐見地区の方とのかかわりを通して、地区で3年前から取り組んでいる“かかしづくり”の取組について地域の方と一緒に見直しを行いました。

研修を通じて、ひとりの方の思いから始まった取組を地域の方「みんな」の取組にするにはどういった仕掛けが必要なのかを考えられました。

「54号線沿いにかかしを並べることが目的ではなく、かかしづくりの取組にかかわりたいと思う人を増やしたい。もっと言えば、並べるために地域の人“集まって話し合う場”がある地域を創っていきたい。かかしは人や地域づくりの手段でしかない。“人づくり”や“地域づくり”ってその手段を使って、遠慮せず互いが顔をみて話し合いができる場や関係をつくることなのかもしれない」と話してくださいました。

今年度はこれまでよりもさらに、参加者もかかしも増え、にぎわったそうです。

そして、「地域にある地域課題に対して、解決するために手を挙げやすくなるようなきっかけづくりも、これからどんどん仕掛けていきたい！でも自分が先回りしすぎではダメ！そうでないといつまでも互いに変わらない」「話し合ったら行動が生まれて、行動したら変わっていくんだと思います」と語ってくださいました。





# 社会教育の実践紹介



## 出雲の『ほんそご協育』推進委員会

一家庭・地域・学校が協働して取り組む出雲の子育て一

出雲市教育委員会 派遣社会教育主事 高橋 兼造

「子どもたちの未来をこんなに真剣に考えている大人たちがいることがとても重要なことだと思う。自分もこのような委員会に参加させてもらって感謝している。」

これは、委員会に参加されている委員の感想です。

今年度出雲市では、子どもの放課後や休日となる土・日曜日の過ごし方について改めて考え、子どもたちにとって充実したものになるよう、家庭・地域・学校が協働して子育てができる仕組みづくりについて検討する「出雲の『ほんそご協育』推進委員会」を設置することになりました。

「ほんそご」は、出雲地方の方言で「かわいい子ども」という意味です。「出雲のかわいい子どもを市民総がかりで育てていきましょう」、そして「大人もともに成長していきましょう」という意味で「出雲の『ほんそご協育』

推進委員会」という名称にしました。

第1回の委員会では、委員が日頃思っている出雲市の教育行政について意見交換を行い、さらに出雲市のめざす子ども像についてワークを通して考えていただきました。

第2回の委員会では、出雲市が取り組むふるさと・キャリア教育について研修を行い、第1回で話し合った“めざす子ども像”について、どのような方法で育てていくのか具体的な方策を考えました。委員同士もずいぶん親しくなり、「今、自分が行っている青少年育成の活動も協育という枠の中でつながっていることを実感した」という声もあがり、「協育」を行う当事者としての意識がだんだんと高まっていくように感じられました。

出雲市の未来を担うほんそごを育てるために、市民総がかりの協育の輪がさらに広がっていくことを願っています。



まさに出雲市に「ほんそご」が誕生した年でした。校長先生やPTA役員、児童クラブ指導員など、多方面から推進委員を募り、知恵を出し合ってほしい課題に向けて良いムードで会議を重ねています。

ネーミングは大切ですね。ニュアンスが伝わるだけでなく、自分たちの出雲市のことなのだという結束をぐっと高める力が、「ほんそご」という言葉にはありますね。

(出雲教育事務所 社会教育スタッフ企画幹)



## 『行動する社会教育委員』として

吉賀町教育委員会 派遣社会教育主事 水上 真悟

吉賀町では、平成26年に保育所・小中学校・PTA・地域住民を対象に、家庭生活や地域での活動の様子(集う場・体験の場など)と、運動量の実態について歩数計を活用してアンケート調査をしました。

この結果をもとに、社会教育委員の会で協議を重ね、家庭で大切にしたいことを曜日ごとにまとめた「サクラマスプロジェクト よしかっ子7か条」を作成しました。

また、この「よしかっ子7か条」をどのような形(もの)にすれば家庭で有効に活用してもらえるかということも協議を重ね、家族皆が見られるようにとマグネットシートとしました。

配付の際には、社会教育委員が小学校に説明に行き、全校集会の時間をいただき「よしかっ子7か条」に込めた思いなどを

直接子ども達に伝えました。

さらに、啓発・周知をするために、音声放送を使い全町へ社会教育委員が直接呼びかけも行っていきます。

吉賀町の社会教育委員は『行動する社会教育委員』という思いを根底に、「社会教育」の推進のために、主体的に活動をしています。この活動を通して「サクラマスプロジェクト」が今後さらに充実していくと感じています。



吉賀町社会教育委員の会は平成27年度10回、平成28年度6回もの会議を重ねておられます。しかも目的やテーマが明確です。だからこそ、協議で終わらずこのような取組に結びついたのだと思います。

直接思いを届けたこの実践。町民の皆さんからの反響、意識や行動の変容が楽しみです。

(益田教育事務所 社会教育スタッフ企画幹)

# 親学プログラム活用紹介

## 〔吉賀町の取組〕

吉賀町では『サクラマスプロジェクト』を教育の核として、すべての子どもを対象に地域で様々な取組をしています。その中で平成29年12月の「だっこっこトーク」の様子を紹介します。

### Step0

#### 「だっこっこトーク」

3年前から始まったこの取組は、乳幼児検診後、0歳児の親を対象に、“抱っこしながら何でもしゃべろう会”として始められました。親同士が知り合うきっかけづくりと、日頃の思いを語り合う場の提供をしています。今回は、親学ファシリテーター2名が進行と支援の役割を分担し、抱っこしながらでもできるプログラムにアレンジして、参加された方の思いを引き出していました。

### Step1

#### 次のステップは・・・

- ・ 保育所の保護者会で
  - ・ 就学前検診の保護者説明会で
  - ・ 学校のPTA研修で
- 親学プログラムを体験します。

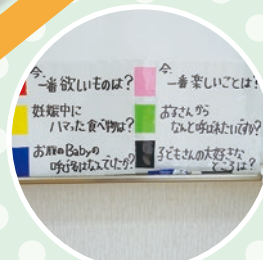
つなげる

いかす

いかす

#### ファシリテーター ふり返りの会

親学プログラム実施の際ファシリテーターは、メイン・サブ・記録の3人体制で臨み、実施後はふり返りをしています。この時の記録をもとに年3回行われるファシリテーターの全体会で話し合い、次のワークショップを改善していきます。



サイコロをつかって  
話すテーマを決めました!



自然と情報交換に!

## 〔江津市の取組〕

江津市では子育て中の悩みや体験などを共有したり、みんなで考えたりする「子育て座談会」を開催しています。

#### 移動式の子育てカフェ

より多くの方が気軽に参加できるように、江津市を大きく4つのエリアに分け、「移動式の子育てカフェ」として開催していきます。



#### 新米ママ・パパへの メッセージ



11月、市内西部の寺院にある「寺カフェ」で開催しました。この場の進行は親学ファシリテーターのみなさんです。親学プログラムで和やかな関係をつくり、お茶を飲みながら日頃の子育てについての語りの場になります。

子育ての先輩から、おすすめの遊び場についての情報提供や子どもとの接し方についてアドバイスがあるなど、あたたかい時間が流れています。

当日は、都合のつく親学ファシリテーターも集まり、ファシリテーター同士の研修・情報交換の場にもなりました。

これからも、より多くの方が気軽に参加できるように、子どもとできる軽スポーツを組み合わせたり、福祉部局と連携したり、様々な相談に幅広く応えられるようにしていきたいと考えています。

## 編集スタッフから

小学校1年生くらいの子どもたちが、はかりの上に筒状のボトルをいくつものせようとしていました。のせ方が悪いので何回やってもコロコロ転がって落ちていきます。何度やっても落ちていく。一人の子どもがボトルの向きを変えたんです。そしたら『やっと落ちない方法がわかったあ!』と笑顔で大騒ぎ。そして次々とほかのボトルものせはじめ、最後には『全部で362グラム!』って。

子どもたちが、試行錯誤している姿を見ることが大好きです。この遠回りする時間がたまらない。自分たちでを見つけるから嬉しいし、楽しいんだよね。自分たちでつけた解決法は忘れない。そして、工夫すればいいんだって気がつく。方法は1つではないからね。

### 東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F  
Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380

URL: [http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu\\_shakaikyoiku/](http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/)  
E-mail: [tobu\\_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp](mailto:tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp)

### 西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみーる3F  
Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345

URL: [http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu\\_shakaikyoiku/](http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/)  
E-mail: [seibu\\_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp](mailto:seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp)

第27号は  
9月末  
発行予定